

第 274 回 谷中・蓮華寺の日蓮幼像と立大のウィリアムズ主教像とタッカー主教像

筆者：林 久治（記載：2024 年 5 月 12 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は「日本の銅像探偵団」 ([1\)のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張っって人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」という意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいたので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。私の銅像探索記の全ては、[2\)のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

私は 4 月 20 日に横浜のみなとみらいの安藤百福像と掃部山公園の井伊直弼像を探索し、[271 回の記事/f](#) では安藤像の探索記を、[272 回の記事/f](#) では井伊像の探索記を記載した。私は 4 月 26 日に、横浜市長津田の大林寺に道元禅師と螢山禅師の銅像を探索した。また、5 月 3 日に練馬区の金乗院にある憲識和尚像を探索した。これら 3 像の探索記を [前回の記事/f](#) に記載した。

私は [3\)のサイト/](#) で、台東区の蓮華寺に日蓮幼像があることを見つけた。本像は、[1\)のサイト/](#) に収録されていない。そこで、私は 5 月 10 日に本像を探索した。そのついでに、池袋の立教大学にも立ち寄って、ウィリアムズ主教像とタッカー主教像も探索した。これら 2 像は [1\)のサイト/](#) に収録されているが、新規情報を得ることが目的であった。本稿はこれら 3 像の探索記である。本稿では私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

（2）台東区蓮華寺の日蓮幼像

次ページの図 1 左に台東区蓮華寺の周辺地図を示す。私は 5 月 10 日に、地下鉄根津駅から蓮華寺（東京都台東区谷中 4-3-1）まで歩いて行った。根津駅の出口 1（図 1 左の①地点）から地上に出ると、そこには「言問い通り」との交差点があった。私は「三浦坂」から蓮華寺に行こうと思ったので、「言問い通り」の一つ北側の道（図 1 左の矢印）を入れて行った。ここが「三浦坂」との表示がなかったが、少し進んで坂が始まる所に（図 1 左の②地点）「三浦坂」との案内板があったので、自分が正しい道を歩んでいることに安心できた。

「三浦坂」の案内板には以下の記載があった ([4\)のサイト/e](#)) 。

『御府内備考』は三浦坂について「三浦志摩守下屋敷の前根津に下る坂なり、一名中坂と称す」と記している。三浦家下屋敷前の坂道だったので三浦坂と呼ばれたのである。安政 3 年（1856）尾張屋敷の切絵図に「ミウラサカ」・「三浦志摩守」との書き入れがあるのに基づくと、三浦家下屋敷は坂を登る左側にあった。三浦氏は美作国（現岡山県北部）真島郡勝山二万三千石の藩主。勝山藩は幕末慶応の頃、藩名を真島藩と改めた。明治五年

(1872) から昭和 42 年『東京府志料』は「三浦頭次の邸近傍ノ土地ヲ合併新ニ町名ヲ加へ（中略）真島ハ三浦氏急藩ノ名ナリ」と記している。坂名とともに、町名の由来にも、三浦家下屋敷は関係があったのである。別名の中坂は、この坂が三崎坂と善光寺坂の中間に位置していたのにちなむという。平成四年十一月 台東区教育委員会



図1. 左：蓮華寺の周辺地図、①：根津駅出口1，②：三浦坂の案内板、③：ハミングボード、右：三浦坂、本図は、[4\) のサイト/e](#)より借用。

今昔マップによれば「根津駅の海拔が6mで、谷中の海拔が約15mである」ので、三浦坂の高低差は約10mである。図1右の写真から分かるように、この坂は周囲が樹木に覆われており、大変爽快感のある坂であった。三浦坂を登り切った先に、白壁の寺院があり、ここが蓮華寺であった。駅から本寺までは、歩いて約10分であった。本寺の写真は、[5\) のサイト/a](#)や[6\) のサイト/1](#)に掲載されている。

境内掲示による本寺の縁起は次の通りである ([6\) のサイト/1](#))。

当山は、下総中山日蓮宗大本山法華経寺第19世寂静院日賢聖人の隠室を以って、凡そ370年前創立となし、当山第3世常在院日在聖人により寛永7(1620)年2月この地に、創建せられる。当寺は、山号を寂静山と云い、寺号を蓮華寺と申し、古来より赤門寺として、また谷中六十三除・虫封の寺としても有名である。

御堂には、靈験あらたかなる清正公大神祇、毘沙門天王、鬼形鬼子母神の三神を安置し、参詣縁者の信仰の堂宇となっておる。この赤門は、明暦、元禄、上野戦争などの災害を免れたもので建築様式は誠に貴重なものとされている。

現在のご本堂等は、江戸文政年頃大檀越勘定奉行細田丹波守の寄進せられた貴重な建造物であり、老朽の美を表している。また浮世絵の細田時富(栄之)、新内中興の祖富士

松魯中の菩提寺である。尚、今日では、境内庭園の四季折々の樹木草花が、爛漫と咲き誇り、参詣縁者の心身に潤いを与うる寺をして有名である。

昭和 52 年 2 月 吉日 当山第 42 世 日統 敬白



図 2. 上：蓮華寺の山門、下：本堂前の銅像。

図2上に、蓮華寺の山門を示す。山門については、ウィキペディアに次の記載がある。

山門は赤門で明暦の大火、元禄地震、上野戦争、関東大震災、東京大空襲などを免れ現存する。

図2上の写真では、山門の奥に銅像が見える。図2下には、本像周辺を示す。



図3．左：銅像の本体、中：台座正面の題字、右：本像裏の印。

図3左には銅像の本体、図3中には台座正面の題字、図3右には本像裏の印を示す。題字には「日蓮聖人御幼時善日麿像」とあった。本像裏の印は、本像制作者の印のようであるが、その固有名詞は不明である。多くの日蓮宗の寺院では日蓮聖人の成人像が設置されているが、幼時像の設置は極めて珍しい。本像の横に、「知徳盛んなりし善日麿 学業成就のお祖師さま」との木碑があった。

本像台座側面には、本像の設置経緯が刻まれていた。しかし、それは大変読み難く、写真撮影も困難であった。その大意は次の通りであった。

當山創建 360 年記念 別院西鶴寺建立満 5 周年記念

平成元年 4 月 28 日 寂靜山蓮華寺第 42 世 本精院日統代

以上の資料などにより、善日麿像の概要は次の通りである。

善日麿立像

設置場所：東京都台東区谷中 4-3-1 蓮華寺

制作者：不明

設置時期：1989年4月28日 當山創建360年記念

設置経緯：日蓮（1222年2月16日－1282年10月13日）は、鎌倉時代の仏教の僧。鎌倉仏教のひとつである日蓮宗（法華宗）の宗祖。幼名は善日曆、あるいは薬王曆と伝えられる。寂靜山蓮華寺は日蓮宗の寺院。当山は、下総中山日蓮宗大本山法華経寺第19世寂靜院日賢聖人の隠室として、凡そ370年前創立、当山第3世常在院日在聖人により寛永7（1620）年2月この地に、創建された。古来より赤門寺として、また谷中六十三除・虫封の寺としても有名である。山門は赤門で明暦の大火、元禄地震、上野戦争、関東大震災、東京大空襲などを免れ現存したもので、建築様式は貴重なものとされている。

（3）根津駅界隈の食べ歩き

根津駅前の裏通り（図1左の楕円内）には、お洒落なレストランが沢山ある。グーグルマップで、それらの写真を見ることが出来る。私はそれらの中で、「ハミングバードカフェ」（図1左の③）に入ってみた。その店頭の写真を図4に示す。



図4. 「ハミングバードカフェ」（図1左の③）の店頭

私は、「**極旨どろぶたハンバーグセット**」（ミニサラダ＋バゲット付き、1350円）を注文してみた。その写真を次ページの図5に示す。なお、コーヒーは別売りで350円であった。お店のHP（[7](#)）の[サイト/](#)には、この料理の説明が次のように書かれていた。

一口食べた途端、美味しさが広がるふっくらジューシーなハンバーグです。お肉は、日本では数少ない有機ポーク。四季を通して北海道にある30ヘクタールもの広大な大地で自由に駆け廻り、泥だらけになりながらドングリやクルミ、青草やイモ、笹や木の根といったものを食べて育ったブランド肉「どろ豚」を使用。ミネラル豊富で良質なオレイン酸をたっぷり含み、噛めば噛むほど美味しい、まさに極旨ハンバーグ。付け合わせの季節の有機野菜も是非お楽しみください。



図5. 「ホミングバードカフェ」の「極旨どろぶたハンバーグセット」

成程、「どろ豚」のハンバーグは臭みがなく、すっきりした味であった。また有機野菜のサラダも美味しかった。しかし、私は家内が栽培した有機野菜を何時も食べているので、当店の野菜には余り感動しなかった（本当は、凄く豪華なサラダだったのに！）。また、コーヒーも特別に旨くなかった。一番気になったのは、付け合わせのパンが著しく貧弱で、生地の部分より穴の面積が広いような感じであった。折角の極旨料理であるなら、パンも豪華なものを使って欲しかった。

（4）立教大学のウィリアムズ主教像とタッカー主教像

私は根津に行く前に、池袋の立教大学にも立ち寄って、そのウィリアムズ主教像とタッカー主教像も探索した。大学に一般人が立ち入る件について、私は一抹の不安があった。しかし、立大のHP [\(8\)のサイト/1](#) には、次のような記載があった。

個人見学は、10名未満の方を対象にしています。大学案内を見ながら自分でキャンパス内を回る「自由見学」（予約不要）と、本学学生がご案内するキャンパスツアーを体験できる「キャンパスツアー付き見学」の2種類があります。

私は上記の文章を読んで、「一般人の個人見学に寛容なのは、流石に立教大学は凄いな！」と感動した。図5に、立教大学の正門付近の構内図を示す。



地下鉄副都心線池袋駅 C3 出口

図6. 立教大学の正門付近の構内図、①：ウィリアムズ主教像、②：タッカー主教像

池袋駅から立教大学に行こうとすると、闇雲に駅から外に出ると道順が分からなくなってしまう。図6に示したように、「**地下鉄副都心線池袋駅 C3 出口**」から外に出ると、信号を渡ることなく一直線に歩いて数分で正門に到着することが出来る。

また、大学構内は広いので、ウィリアムズ主教像とタッカー主教像との設置場所を予め調査してから探索に行くことを勧める。[9\) のサイト/2](#)よりウィリアムズ主教像は「立教学院諸聖徒礼拝堂（チャペル）」の西側に（図6の①地点）、[10\) のサイト/](#)よりタッカー主教像は「タッカーホール」の入口脇（図6の②地点）にあることが分かった。

私は正門から入り、右側にあるチャペルの裏側に回り込むと、そこにウィリアムズ主教像があった。その写真を、次ページの図7上に示す。図7下左には本像横の碑文を、図7下右には本像土台にあった制作者名を示す。碑文には、次のような聖句が書かれていた。

人の子がきたのも 仕えられるためではなく 仕えるためであり

また多くの人の あがないとして 自分の命を 與えるためである

立教学院創立者 主教ウィリアムズ之像 昭和四十二年五月十八日建立

制作者名には「1967.3月 K. MISAKA」とあった。[11\) のサイト/1](#)は、本像の除幕式の様子を報じている。それには、「制作者は三坂耿一郎氏」と書かれていた。これは、図7下右の制作者名と一致している。ウィキペディアには、三坂氏の略歴を次のように記載している。

三坂歌一郎（みさか・こういちろう、1908年5月26日 - 1995年8月3日）は、彫刻家、日本芸術院会員。福島県郡山市出身。本名は政治。1937年東京美術学校彫塑科卒業、1979年日本芸術院賞受賞、1986年日本芸術院会員、1987年郡山市名誉市民、1992年勲三等瑞宝章受章。



図7. 上：ウィリアムズ主教像、下左：本像横の碑文、下右：本像土台の制作者名。

ウィリアムズ主教像の探索後、「タッカーホール」に行くと、その入口脇に1基の胸像があった。その写真を、図8上に示す。また、本像の土台にあった制作者サインを図8下に示す。それには、「一九七一年 三坂 耿一郎作」とあった。本像の除幕式は、[12\) のサイト/1](#)に報じられている。



図8.

上：タッカー主教像

下：本像側面の制作者サイン。

立教大学におけるウィリアムズ主教とタッカー主教の業績は多くの記事に書かれている。本稿では、[13\) のサイト/1](#)と[14\) のサイト/1](#)を用いて、両像の設置経緯を記載した。以上の資料などにより、両像の概要は次の通りである。

ウィリアムズ主教立像

設置場所：東京都豊島区西池袋 3-34-1 立教大学チャペル前

制作者：三坂耿一郎

除幕式：1967年5月

設置経緯：立教各校の源流は、1874年2月3日、米国聖公会のウィリアムズ主教によって始められた私塾（立教学校）に求められます。この学校は、築地居留地界隈で産声を上げ、5名とも8名とも伝えられるごく少数の生徒でスタートしました。当初は、英語や聖書の授業を中心とし、生徒の多くは寄宿生でした。その後、二度にわたる大火事によって、数度の移転や一時閉鎖を余儀なくされましたが、1883年には、ガーディナー校長のもと、築地居留地37番に本格的なレンガ校舎を完成させ、アメリカのカレッジを模した「立教大学校」と称するようになりました。

ウィリアムズ（Channing Moore Williams、1829.7.18－1910.12.2）は、日本聖公会初代主教、立教学院の創設者、神学博士。ヴァージニア神学校卒業後、1856年に清国伝道を開始した。日本の開国に伴って1859年、プロテスタント最初の宣教師の1人として長崎に上陸。1874年に東京築地の開市場に私塾（立教学校）を開いたほか、数々の教会や学校をおこした。1887年には日本聖公会を組織し、その2年後に主教（監督）の職を辞して一介の宣教師として関西各地に伝道した。1908年に帰米し、翌々年故郷で永眠した。

タッカー主教胸像

設置場所：東京都豊島区西池袋3-34-1 立教大学タッカーホール入口脇

制作者：三坂耿一郎

除幕式：1971年11月3日

設置経緯：立教専修学校の閉鎖ののち、中学校の卒業生を受け入れる立教独自の高等教育機関の必要性が痛感されるようになり、ロイドの後任であるタッカー学院総理のもと、1907年、専門学校令にもとづく「立教大学」が設置されました。築地の校地には、生徒数500名を超える中学校に、新たに大学が加わったため、敷地の狭隘化が深刻な問題となりました。そのため、大学の今後の発展のために、現在の池袋校地（立教通り南側のみ）が適地とされ、1910年に購入されました。その後、タッカーの後任であるライフスナイダー総理のもとでキャンパスプランが練られ、1918年、主要な建物が完成したのを機に、大学が池袋へと移転しました。

タッカー（Henry St. George Tucker、1874.7.16－1959.8.8）は、米国聖公会総裁主教、立教学院総理。ヴァージニア神学校を卒業後、1899年来日。弘前で牧会。1903年、アーサー・ロイドの後任として立教学院総理に就任し、1907年には専門学校令による立教大学を設立した。さらに、大学を東京築地から池袋に移転させるための土地獲得に精力的に奔走、今日の立教大学の基礎を築いた（立教大学の中興の祖）。1912年、京都地方部主教に選出されて立教を辞した。1923年帰国、1938年から1946年まで米国聖公会第19代総裁主教を務めた。

参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：
<https://hotokami.jp/area/tokyo/Hkrkk/Hkrkktp/Daata/51296/photos/>
- 4) のサイト：<https://note.com/3dluna/n/n6a9f2912080e>
- 5) のサイト：<https://note.com/3dluna/n/ne303f7fa198a>
- 6) のサイト：https://tesshow.jp/taito/temple_yanaka_renge.html

- 7) のサイト : <https://hummingbird-cafe.jp/lunch/>
- 8) のサイト : <https://www.rikkyo.ac.jp/admissions/visit/tours/visit01.html>
- 9) のサイト : <https://arashi-golf.hatenablog.jp/entry/15894872>
- 10) のサイト : <https://arashi-golf.hatenablog.jp/entry/15894872>
- 11) のサイト : <https://koyu.rikkyo.ac.jp/magazine/mail/time/tim050.html>
- 12) のサイト : <https://koyu.rikkyo.ac.jp/magazine/mail/time/tim017.html>
- 13) のサイト :
https://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/rikkyo_archives/photo/01.html
- 14) のサイト :
https://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/rikkyo_archives/photo/02.html